

獣医学科カリキュラムマップ 2020年度[V20000番台]以降入学者適用

獣医学部の理念・目的
獣医学部は、幅広い獣医学及び動物応用科学教育を行い、生命と福祉に係る科学者としての責任感に基づいて、社会的使命を正しく遂行し得る獣医師及び動物科学技術者を育成するとともに、社会より与えられた責任に対して応えられ、かつ、国際的視野をもつことができる人材を養成する。
獣医学科の目的
獣医学部の理念・目的に基づき、獣医学科では、獣医師としての科学的思考力と応用能力を展開させ、生命と福祉にかかわる科学者としての社会的使命を遂行できる能力及び動物の生理や病態、疾病の処置とその予防、並びにヒトと動物の感染症、動物性食品衛生及び環境衛生に関する科学的知識と技術を併せ持つ人材の養成を目的とする。
獣医学科の3つのポリシー
<p>1. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)</p> <p>本学科に定められたカリキュラムをICTを活用して学修することで、次のような人材が育成されることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 獣医師としての専門分野の学問内容についての知識を持つ。 (2) 獣医師として、臨床・家畜衛生・公衆衛生に対応できる専門家としての実践能力を持つ。 (3) 獣医師としての高い倫理観を有し、高度な専門職業人として責任を持った行動をとることができる。 (4) 獣医師である高度な専門職業人として、課題発展能力・問題解決能力を持ち、獣医療の進歩や生命科学に関する社会のニーズの変化に、持続的に対応できる柔軟さと学習意欲を持つ。
<p>2. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)</p> <p>本学科では、動物に関する分子生物、細胞、組織、器官および個体レベルの正常な機能についての知識を基盤として、感染症の原因や引き起こす病態、社会への影響、防疫はもちろん、化学物質が生命に及ぼす影響の客観的評価、動物の疾患の原因特定や予防、治療法とその結果の評価に至るまでの広範囲の獣医学知識と技術を身に付けることで、動物の保健衛生の向上ならびに畜産業の発達に貢献し、また公衆衛生の向上に寄与できる人材を育成することを目標とする。このような広範囲な獣医学専門教育を効率よく学修できるようにするため、ICTを活用する。専門教育を、基礎獣医学系(組織・解剖学、生理・生化学)、病態獣医学系(薬理・毒性学、微生物学、病理学、免疫学)、生産獣医学系(家畜衛生学、産業動物臨床学)、臨床獣医学(小動物臨床学)系及び環境獣医学系(公衆衛生学、実験動物学)の5系のカテゴリーに分け、系内及び系外教員との協力体制の下に教育を展開する。</p> <p>目的に基づき、以下のような特徴あるカリキュラムを編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 初等年次では、教養から基礎獣医学まで幅広い知識や倫理観を身に付けるために基礎系教員と獣医学系教員の協力による総合的なカリキュラムを設定する。生物学、細胞生物学、分子生物学、化学、生態学などの学問の理解を通じて生命の基礎となる知識を身に付けるとともに、科学英語やコンピュータ演習を通じて、ICTを活用した情報収集、レポート作成方法を身に付ける。獣医解剖学、組織学、発生学およびこれらの実習を通じて細胞から個体における動物の形態を、また獣医生理学、生化学およびこれらの実習を通じて動物の機能について学ぶ。また教員および社会人として活躍する獣医師による獣医学概論を通じて、獣医師の仕事や責務など、卒業後の自らの姿を低学年から考える素材を提供する。 (2) 中等年次では、病態獣医学系や生産獣医学系、臨床獣医学系の教員によって、微生物とそれによって引き起こされる病態について学ぶ専門的なカリキュラムを設定する。寄生虫学、細菌学、ウイルス学を通じて微生物の動物体内での動態や疾病発症、伝染性について理解する。またミクロからマクロレベルの詳細な病態は、獣医病理学で深く理解できるようにする。 (3) 高等年次では、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の教員が中心となり、小動物臨床獣医師、産業動物臨床獣医師、家畜衛生獣医師あるいは公衆衛生獣医師などの獣医師としての専門性を身に付け、実践力を体得するためのカリキュラムを設定し教育している。授業では、基礎獣医学系、病態獣医学系科目で修めた技術や知識を十分応用し、疾病を分子から個体レベルまで理解できるようにする。生産負荷をかけられる経済動物である牛や馬、豚などの特性や、疾病の発生機序と病態、診断と治療についての知見をもとに、防疫や疾病予防に関する技術と知識を提供する。また、繁殖学では、豚や牛、馬の生殖とその異常、治療法についての技術と知識を提供する。小動物分野では、さまざまな疾病について、内科学総論、臨床病理学、臨床薬理学、呼吸循環器病学、消化器病学、泌尿生殖器病学、内分泌代謝学、臨床栄養学、神経病学、血液免疫病学、皮膚病学、臨床行動学、外科学総論、手術学総論、麻酔学、軟部組織外科学、運動器病学、臨床腫瘍学、眼科学、画像診断学の立場から診療の技術と知識を提供する。臨床系の実習においては、学術情報センターのシステムを活用し、学生が学外においてもPCやタブレットを用いて臨床技術の予習および復習を映像にて学び理解できる環境を提供する。 (4) 問題解決能力を向上させるため、ICTを利用した論文検索で得られた知見や実験等で得られた新知見の集大成として、卒業論文を配置する。 (5) 獣医師として、社会に巣立つための獣医師ライセンスの取得を目的とした獣医師国家試験対策のために、専門教育5系に属する獣医学系全教員の連携による総合的なカリキュラムを設定する。
<p>3. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)</p> <p>本学科の教育は、獣医師として高い倫理観を有し、高度な専門知識・技術を身に付けて社会に貢献できる人材を養成することを目的としているため、次のような人物を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人や動物、自然が好きの人 (2) 獣医学に強い関心を持ち、獣医師となることについて明確な問題意識を持つ人 (3) 獣医師になるための情熱及び他者への思いやりと奉仕の心、高い倫理観を持つ人
<p>4. 学士力</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 知識・理解：専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 多文化・異文化に関する知識の理解。 ② 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解。 (2) 汎用的技能：知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能。 <ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーション・スキル：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 ② 数量的スキル：自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。 ③ 情報リテラシー：情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ④ 論理的思考力：情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 ⑤ 問題解決力：問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 (3) 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> ① 自己管理能力：自らを律して行動できる。 ② チームワーク、リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。 ③ 倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 ④ 市民としての社会的責任：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 ⑤ 生涯学習力：卒業後も自律・自立して学習できる。 (4) 総合的な学習経験と創造的思考力：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決する能力。

獣医学科

授業科目	学年	学期	単位数	系	科目の到達目標	ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
						(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	
						心理学	2	前期	②	基礎系	・自己理解を深めるとともに人のこころや行動を理解することで、円滑な対人関係が築けるようになる。 ・人の心理現象や行動について科学的知識を持つことで、日常生活での様々なストレスや対人的トラブルにうまく対処できるような応用的スキルを身につけることができる。	◎		○
動物比較心理学	2	後期	②	基礎系	・ヒトを含む動物の「心のはたらき」を科学的に測定・比較する方法を学び、そのメカニズムについて説明できる。 ・ヒトを含む動物の「心のはたらき」を生み出す過程を学び、その過程の基礎である進化について説明できる。 ・ヒトを含む動物を「生物学的な視点」から捉え直すことで、多くの動物種における心の共通性と独自性を説明できる。 ・個体や個人の感覚器官で処理される「心」から社会的状況における「心」までを学び、社会問題などを新たな視点で捉えることができる。	◎			○	◎	○			
文章表現法	2	前期	②	基礎系	・自分の考えを説明することができるようになり、論文の書き方を習得する。 ・実際に文章を書き、言葉の表現についての感覚を養う。 ・文章による発想の展開、主張、個性を表現することの面白さを実感することができる。 ・自分の文章の位置づけ(作文、小論文、学術論文など)が明確に意識できるようになる。					○	○	◎	○	○
総合英語	2	前期	②	基礎系	・論説文を読むことができ、それに対し自己の見解を英語で作成できる。・実戦的な英語skillを身につける。	△	△	△	△	○	○	△	○	
職業指導	3	後期	④	基礎系	・一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることができる。 ・一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てることができる。 ・職業人としての規範意識や倫理観、技術の進展や環境、エネルギー問題への配慮、地域産業を担う人材育成等の重要性を理解し、体験活動の充実を図ることができる。						○	○	○	
現代経済学	2	前期	②	基礎系	・経済の仕組みについて、簡潔に説明できる。 ・企業行動及び消費者行動を考察することにより、市場経済をより深く理解し、説明できる。 ・景気対策、社会保障など基本的な経済政策について理解し、説明できる。				○	◎	○			
法学概論	2	前期	②	基礎系	・法学の基礎事項を説明できる。 ・動物や獣医療と法とのかわりに関する基礎事項を説明できる。	◎					◎			
現代社会学	2	前期	②	基礎系	・死とは何かについて考えと共に生命の尊さを理解し、獣医師としての倫理観を育み説明できる。 ・人と動物の様々な関わり方について理解し、社会のニーズの変化に対応できる能力を養い説明できる。 ・家族の多様な形態や変遷について国内外のデータ比較を通じ、現代社会における問題解決能力を養成し説明できる。				◎	◎	○	○	△	△
数学	1	前期	②	基礎系	・行列およびベクトルについて理解し、行列の計算ができる。 ・行列を利用して連立一次方程式を解くことができる。 ・微分について図形的な観点から理解し、定義に基づいて簡単な関数の導関数が計算できる。						◎	○	◎	○
ライフサイエンスの数学Ⅰ	1	後期	②	基礎系	・一次従属・一次独立の概念を理解し、図を交えて説明できる。 ・Gram-Schmidtの正規直交化法について理解し、実際に計算できる。 ・3次行列の固有値・固有ベクトルを算出でき、対角化について説明できる。						◎	○	◎	○
ライフサイエンスの数学Ⅱ	1	後期	②	基礎系	・積分について理解し、計算できる。 ・ベクトル場とスカラー場について理解し、種々の演算が計算できる。 ・基本的な常微分方程式の解法について学び、解が求められる。						◎	○	◎	○
物理学	1	前期	②	基礎系	・質点に加わる力を数え上げ、運動方程式を立てることができる。 ・仕事量とエネルギーの概念を定性的・定量的に理解し、両方の観点から説明できる。 ・エネルギー保存則、運動量保存則について理解する。						◎	◎	◎	○
物理学実験	2	前期	①	基礎系	・物理の力学、電磁気、波動に関する物理現象を観測することができる。 ・基本的な測定技術があり、実験レポートを作成することができる。 ・自分が行った実験内容についてのプレゼンテーションを行い、他の人に実験結果や考察を分かりやすく伝えることができる							○		○
化学	1	前期	2	基礎系	・化学変化を量的に取り扱うことができるようになる。 ・化学反応がおこるしくみを理解し、エネルギーとの関連性を説明できる。 ・生体内の化学反応が効率よく進行するしくみについて説明できる。							○		◎
化学実験	1	後期	①	基礎系	・試薬、器具、機器の取り扱い、データの取り方、処理方法など基本的な実験技術が身につく。 ・実験結果を論理的に分析することにより、結論を導き出すことができる。 ・チームで協力、協働して課題に取り組み、実験の目的を達成することができる。							○	◎	○
有機化学	1	後期	②	基礎系	・有機化合物の分子構造と性質について、グループごとにその特徴を説明できる。 ・代表的な化合物の構造式、反応式を書くことができる。 ・生体に存在する有機化合物である脂質、アミノ酸、糖類について、構造や性質を説明できる。							○		◎

4 育 科 目	フランス語 I	1	前期	②	基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルの部屋の予約の仕方、鉄道や地下鉄の切符の買い方、買い物の仕方など、フランス語圏で生活を送るために必要な、基本的な会話ができる。 ・辞書を片手に、フランス語で書かれた簡単な文章を解読したり、作文したりすることが出来る。 ・フランスの文化や歴史に関する基本的な知識が身につく、説明できる。 ・文化や歴史を通してフランス人のものの見方、考え方を知り、日本人との相違を知ることができる。 	◎				◎	◎	○			
	スペイン語 I	1	前期	②	基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介や日本の紹介などのトピックについてスペイン語で話すことができる。 ・辞書を用いて簡単なテキストを読むことができる。 ・スペイン語の動詞を現在時制に活用することができる。 ・スペインの大都市について、文化・地理的特色を把握している。 	◎				◎	◎	○	△		
	ドイツ語 II	1	後期	②	基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を引きながら少し複雑なドイツ語の文章を読むことができる。(田代) ・ドイツ語を通じて現代のドイツ事情を更に深く、説明できる。(田代) ・「ドイツ語検定4級」合格レベルの基礎的なドイツ語が理解でき、日常生活に必要な表現や文が運用できる。(柴田) ・ドイツ語やドイツ語圏の文化を知ること、対話力や異文化理解を深めることができる。(柴田) ・独学でドイツ語学習を継続することができる。(柴田) 	◎				◎					
	フランス語 II	1	後期	②	基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランでの注文の仕方、道の尋ね方など、フランス語圏で生活を送るために必要な、基本的な会話ができる。 ・辞書を片手に、フランス語で書かれた簡単な文章を解読したり、作文したりすることが出来る。 ・フランスに関する現在の社会事情を知り、説明できる。 ・文化や歴史を通してフランス人のものの見方、考え方を知り、日本人との相違を知り、説明ができる。 	◎					◎	◎	○		
	スペイン語 II	1	後期	②	基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味や習慣、経験、一般論など、より高度なテーマについてスペイン語で話すことができる。 ・自分の必要とするトピックに関する文書を探し、辞書などを用いて読むことができる。 ・動詞を様々な時制形に活用できる。 ・スペインの大都市、および、いくつかの南米の都市の地理・文化的特色を把握している。 	◎					◎	◎	○	△	
自 由 科 目	生物学入門	1	前期	▲2	基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の生物IとII(生態学分野を除く)を理解し、説明できる。 ・専門課程に必要な生物学の基礎的な知識レベルを理解し、それを補う自習学習の習慣が身につけられる。 	◎				○	○	◎		○	
	化学入門	1	前期	▲2	基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ・必修化学の定期試験に合格できる。 ・化学反応の量的関係が説明できる。 ・モル濃度、%濃度、溶液の希釈に関する計算ができる。 ・基本的に重要な化学反応式が書けるようになる。 	○				○		◎			
専 門 科 目	細胞生物学	1	前期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の基本単位である細胞の構造と機能の基本的事項を理解し説明できる。 ・エネルギー代謝、細胞分裂、シグナル伝達、発生と分化が説明できる。 	◎				△	◎	○			
専	獣医遺伝学	2	後期	1	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・生命現象の根幹となる遺伝現象に関する世代経過にともなう遺伝子変異やそれともなう形質形成の過程を理解した上で、動物の遺伝的改良理論や遺伝子疾患の発症メカニズムを学び、実践的な育種選抜法や遺伝的疾患の予防方法について理解し、説明できる。 	◎				△	◎	○			
	獣医解剖学 I	1	前期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・体の成り立ち、解剖学用語、骨格系、筋系、体腔、膜および消化器系の各器官について学ぶことで、それぞれの器官の形態学および構造的な特徴を理解し、各器官の正常な形、位置および機能について説明できる。また、臨床的な問題に遭遇した場合に、その成因や正常時との違いを説明できる。 	◎				△	◎	○			
	獣医解剖学 II	1	後期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、循環器系、内分泌系、神経系および感覚器系の各器官について学ぶことで、それぞれの器官の形態学および構造的な特徴を理解し、各器官の正常な形、位置および機能について説明できる。また、臨床的な問題に遭遇した場合に、その成因や正常時との違いを説明できる。 	◎				△	◎	○			
	獣医組織学	1	後期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・牛、馬、豚、犬、鶏および実験動物(マウス、ラット)を主な対象とし、動物体を構成する細胞の微細構造と細胞集団としての組織・器官の組織構造と細胞構成を理解し、代表的な組織学・細胞学用語を習得し説明できる。 ・器官および系が担う機能について、組織・細胞レベルの構造と対応させて理解し説明できる。 	◎					△	◎	○		
	獣医発生学	2	後期	1	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学で対象とする動物体を構成する組織や器官あるいは個体の発生過程を学習することにより、個体の発生、細胞・組織・器官の分化および成熟過程の調節のしくみを理解するための基礎知識を習得し説明できる。 	◎					△	◎	○		
	獣医解剖学実習	2	通年	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目で学習した動物体の構造を、肉眼で観察することにより、各器官の相互位置関係や形態を理解して、説明できる。 ・動物種による器官の解剖学的な差異や、器官が担う機能と構造の対応関係、器官の臨床上の重要性を説明できる。 ・消化器系・泌尿生殖器系の組織標本を観察・スケッチすることで、組織構造の特徴を理解して、説明できる。 	◎					△	◎	○		
	獣医組織学実習	3	前期	1	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・犬、馬、豚、反芻類、実験動物(マウス、ラットなど)を対象動物とし、各項目に記載された主要な組織・器官の組織標本を光学顕微鏡で観察・スケッチすることにより、それらの構造的な特徴を理解し説明できる。 	◎					△	◎	○		
	獣医生理学 I	1	後期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・正常動物の細胞の機能や情報伝達、信号処理機構を説明できる。 ・薬理学や動物の疾病・治療など、正常な生体機能をもとに理解を深める学問の基盤を理解し説明できる。 	◎					△	◎	○		
	獣医生理学 II	2	前期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・臓器固有の機能を理解し、さらに臓器と臓器の相互作用を理解することで複雑な生体機能の説明ができる。 ・正常な生体の機能を説明できる。これに伴い、生体の異常や機能不全の成り立ちを探求することができる。 	◎					△	◎	○		

門 科 目	獣医生理学実習Ⅰ	2	後期	1	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 血液性状の測定法を行える。 測定した様々な血液性状から様々な体の状態を知り、説明できる。 心臓の機能の測定法を行える。 腎臓機能の理解を深め、説明できる。 	◎			△	◎	○			
	獣医生理学実習Ⅱ	3	前期	1	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 活動電位の発生と伝導の仕組み、骨格筋の随意運動時と伸張反射時の働きについて説明できる。 心電図の成り立ちと循環系の調節について説明できる。 脳波の計測で脳の活動を行動とともに観察し、脳波の成因を知り、脳波と行動から個体の状態を推測することができる。 感覚受容と個体差について説明できる。 	◎			△	◎	○			
	分子生物学	1	後期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> DNA(遺伝子)、RNA、タンパク質を中心とする分子レベルで生命現象を理解し説明できる。 遺伝子工学、発生工学の基盤となる技術や理論を理解し説明できる。 	◎			○	◎	○			
	獣医生化学Ⅰ	1	後期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 生物を形作る、糖質、タンパク、脂質、核酸と言った基本的構造を基本的な機能を踏まえて説明できる。 生命に必須のビタミンや微量元素に関し、その必要性と具体的効果に関して説明できる。 	◎			△	◎	○			
	獣医生化学Ⅱ	2	前期	2	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 糖質、タンパク、脂質、核酸の代謝、生体エネルギー代謝とその恒常性に関して説明できる。臓器別機能を概説し、機能欠損に関わる疾患を具体的に理解できる。 核酸、細胞間の情報伝達の分子機構を説明できる。 	◎			△	◎	○			
	獣医生化学実習	2	後期	1	基礎獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 生体を構成する分子の構造と機能に関する基本的知識を習得し、説明できる。 生命現象を化学反応として捉え、分子レベルで解析・分析する基礎的技能を習得し、説明できる。 	◎			△	◎	○			
	獣医寄生虫Ⅰ(獣医寄生虫学を含む)	2	後期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 寄生虫の生物学や寄生現象および宿主-寄生虫関係に関連する用語の意味を説明できる。獣医臨床および公衆衛生上重要な原虫および吸虫の分類、形態、生活環、病原性、流行の現状・疫学、病態、診断、治療、予防および宿主の防御機構について説明できる。 	◎				◎	○			
	獣医寄生虫Ⅱ(獣医寄生虫学を含む)	3	前期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 獣医臨床および公衆衛生上重要な鉤頭虫、条虫、線虫、外部寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、流行の現状・疫学、病態、診断、治療、予防および宿主の防御機構について説明できる。 	◎				◎	○			
	獣医寄生虫学実習	3	前期	1	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 獣医臨床および公衆衛生上重要な寄生虫病の診断と対策に必要な知識、技術について説明できる。 	◎				◎	○			
	獣医薬理学総論	3	前期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の薬理作用と作用機序について理解し説明できる。 薬物の体内動態について理解し説明できる。 医薬品の開発と規制について理解し説明できる。 神経系に作用する薬物について理解し説明できる。 	◎				◎	○			
	獣医薬理学各論	3	後期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 獣医臨床で用いられている薬物の作用機序、体内動態および有害作用について理解し説明できる。 畜産現場で用いられている薬物の作用機序、体内動態および有害作用について理解し説明できる。 生体に対する薬物の作用を実験的に解明し論理的に理解し説明できる。 	◎				◎	○			
	獣医薬理学実習	3	後期	1	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 実験動物の取り扱いについて習得し実践できる。 基本的な薬理学実験の実験手法について習得し実践できる。 丸ごとの動物(whole animal)に薬物を投与した時(in vivo試験)に生じる反応について理解し説明できる。 摘出組織に薬物を適用した時(in vitro試験)に生じる反応について理解し説明できる。 	◎				◎	○			
	毒性学	3	後期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 生理的ならびに薬理的な反応を基礎とした毒性の発生機構について習熟し、毒性の有無を明らかにする各種の毒性試験の特徴について説明できる。 現代社会における毒性学に関するトピックについて理解し、議論できる。 獣医師としての毒性学の知識および考え方をもち、対応することができる。 	◎			○	◎	○			
毒性学実習	4	前期	1	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 毒性試験法を理解し、説明できる。 毒性試験で用いる実験動物や被験物質の取扱法を理解し、実施できる。 化学物質の体内動態と代謝について理解し、説明できる。 環境化学物質の生体・生態に及ぼす影響について理解し、説明できる。 	◎			○	◎	○				
獣医微生物学総論	2	前期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 獣医学および獣医臨床に必要な微生物の基本的事項を学び説明することができる。 微生物の分類、細胞構造、生態、増殖様式、感染宿主に及ぼす影響、化学療法薬と耐性、正常菌叢および滅菌と消毒に関する知識を学び、動物の感染症および人獣共通感染症の起因微生物を感染宿主の動物種差を含めて理解し、診断、治療および予防を安全・確実に行うことができる。 	◎				◎	○				
専 門 科 目	獣医微生物学各論Ⅰ(細菌・真菌)	2	後期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 獣医微生物学総論で習得した知識を基に、感染症を起こす代表的な細菌や真菌についてより深い知識を習得し説明できる。 	◎				◎	○			
	獣医微生物学各論Ⅱ(ウイルス)	3	前期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 獣医微生物学総論で習得した知識を基に、感染症を起こす代表的なウイルスについてより深い知識を習得し説明できる。 	◎				◎	○			

	獣医免疫学	3	前期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・自然免疫および適応免疫機構について理解し、説明できる。 ・免疫系を構成する細胞について理解し、その役割について説明できる。 ・リンパ球受容体の多様性が生み出される機序について理解し、感染症に対する働きを説明できる。 	◎					◎	○				
	獣医微生物学実習Ⅰ	3	前期	1	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性およびその取り扱いを習得し、実践できる。 ・細菌の分離同定法の基礎を体験的に習得し、実践できる。 ・細菌の特性を理解し、適切で安全に取り扱える能力ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施、説明できる 	◎						◎	○			
	獣医微生物学実習Ⅱ	3	後期	1	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性およびその取り扱いを習得し、実践できる。 ・ウイルスの分離同定法の基礎を体験的に習得し、実践できる。 ・ウイルスの特性を理解し、適切で安全に取り扱える能力ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施、説明できる。 	◎						◎	○			
	獣医病理学総論	3	前期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学が対象とする動物の疾病の病理学的特徴を理解するために、基本的な細胞・組織の異常について形態学的、生化学的、分子生物学的視点より学び、説明できる。 	◎						◎	○			
	獣医病理学各論Ⅰ	3	後期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学で対象とする動物の疾病の病理学的知見とその病理発生を理解し、説明できる。 	◎						◎	○			
	獣医病理学各論Ⅱ	4	前期	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学で対象とする動物の疾病の病理学的知見とその病理発生を理解し、説明できる。 	◎						◎	○			
	獣医病理学実習	4	通年	2	病態獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・病理組織標本をみて病変を説明できる。 ・病理解剖の肉眼所見を説明できる。 ・細胞障害や疾患の発現機序を説明できる。 ・細胞障害や疾患が生体に与える影響を説明できる。 	◎						◎	○			
専 門 科 目	牧場実習	2	前期	1	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営を体験することで、畜産の現状や産業動物について理解し説明できる。 ・大中家畜に接することで、その扱いに慣れ、飼育方法を説明できる。 ・生産現場で作業することで、人とのコミュニケーション能力や協調性を身につける。 	◎						○	○	◎		
	獣医栄養学	3	前期	2	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料資源と飼料の栄養価、タンパク質代謝やエネルギー代謝など基本的な代謝機構について理解し、説明できる。 ・家畜・家禽（牛・豚・鶏）の栄養管理、健康維持・疾病に栄養がおよぼす影響について理解し、説明できる。 ・イヌとネコの栄養管理、健康維持・疾病に栄養がおよぼす影響について理解し、説明できる。 	◎						○	◎			
	家禽疾病学	4	前期	2	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・家禽の解剖学的・生理学的・免疫学的機能と特性を説明できる。 ・鶏の感染症の発病機序、疫学、原因、症状、診断および予防について説明できる。 	◎	◎					○	◎			
	家畜伝染病学Ⅰ	4	前期	2	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・法定伝染病と届出伝染病に指定されている豚、馬の伝染病の概要とわが国における発生状況を説明できる。 ・病原体と宿主との関連性から豚と馬の伝染病の発生機序を説明できる。 ・イヌとネコの伝染病の診断・治療・予防法を説明できる。 	◎	◎					○	◎			
	家畜伝染病学Ⅱ	4	後期	1	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・法定伝染病と届出伝染病に指定されている牛、緬山羊、ミツバチの伝染病の概要とわが国における発生状況を説明できる。 ・病原体と宿主との関連性から牛、緬山羊、ミツバチの伝染病の発病機序を説明できる。 	◎	◎					○	◎			
	家畜伝染病学実習	5	後期	1	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の感染症の診断に必要な病理解剖、採材・検査方法の実技を修得し説明できる。 	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	◎		
	家畜衛生学Ⅰ	4	前期	2	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の衛生管理について説明できる。 ・畜産物の安全と衛生について説明できる。 ・環境衛生について説明できる。 	◎	◎					○	◎			
	家畜衛生学Ⅱ	4	後期	1	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜と病原体の関係について理解し、感染症の成立要因と病原性の分子基盤を説明できる。 ・衛生管理、農場HACCP、消毒剤、防疫指針、ワクチネーションプログラム、清浄化対策について説明できる。 ・動物感染症を効果的に制御するための、行政組織と国際機関が果たす役割について説明できる。 	◎	◎					○	◎			
	家畜衛生学実習	4	後期	1	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・空気の検査を説明できる。 ・水質（上水、排水）の検査方法を説明できる。 ・土壌の検査方法を説明できる。 ・消毒・搾乳衛生について実践的手法を説明できる。 	◎	◎					○	◎			
	獣医臨床繁殖学	4	前期	2	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な動物の発情周期、妊娠、分娩および産褥の過程を理解し、説明できる。 ・繁殖障害の治療法および予防法の概要を説明できる。 ・動物の生殖機能を人為的に調節する技術を説明できる。 ・代表的な動物の発情周期、妊娠、分娩および産褥の過程を理解し、説明できる。 	◎	○	○	○				◎	○	◎	
	【アドバンス科目】 産業動物獣医総合臨床	5	前期	4	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・産業動物（牛・馬・豚・山羊・緬山羊・蜂等）に重要で特徴的な疾病の原因、症状、診断方法、予後判定、治療方法などを理解し、それぞれの注意点や重要性について説明することが出来る。 ・産業動物生産獣医療の特徴、獣医師としての役割、今後求められる社会貢献の方法について自ら考え、説明することが出来る。 	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○	◎		

	産業動物臨床実習	5	後期	1	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 産業動物が示している臨床症状の意味を理解し、適切な診断方法を選択、検査手技の一部を実施できる。 正しい診断を下し、産業動物の価値を考慮して、適切な対応や治療方法を選択、その一部を実施できる。 生産獣医療が食料生産や人の健康に及ぼす影響を理解し、その重要性を説明できる。 	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎
	水生動物疾病学	3	後期	2	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 総論：魚類分類、解剖学および生理学的特性、飼育、生体防御を理解し、説明できる。 各論：環境性・栄養性疾病、腫瘍、ウイルス病、細菌病、真菌病、原虫病、大型寄生虫病を理解し説明できる。 特論：その他の水生動物の解剖・生理学的特徴を理解し、説明できる。 	◎	○	○	○		◎	○	◎
	基礎・産業動物獣医総合臨床	4	後期	2	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 産業動物（牛・馬・豚等）の解剖学的・生理学的な特徴と疾病発生の関係、および臨床症状の意味を理解し説明することが出来る。 様々な検査方法の特徴と手技を理解し正しい診断を下すこと、それに従い適切な治療法をどのように選択していくか説明することが出来る。 生産獣医療が食料生産や人の健康に及ぼす影響を理解し、その重要性を説明できる。 	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎
	獣医内科学	4	前期	2	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 獣医療における問診、一般身体検査、診療記録及びインフォームド・コンセントの基本を理解し説明できる。 各種内科疾患については、臓器別あるいは疾患群別、発病機序、臨床徴候及び診断理論を説明できる。 生産動物（牛と豚）については、その病気の特殊性と基本的診療方針及び診断手順を説明できる。 	◎	○	△	◎	○	○	○	△
	獣医外科学	4	後期	2	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 外科侵襲時の生体反応を知り、外科的疾患に対する基本的な病態を把握し、説明できる。 外科手術時の消毒、滅菌の重要性を知り、生体に対する消毒法、手術機械の滅菌操作を把握し、実施できる。 外科手術時に必要な基本的な器具、器械の使用方法を把握し、実施できる。 	◎	○	△	◎	○	○	○	△
	獣医放射線学	2	後期	2	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 放射線物理学、放射線化学、放射線生理学、放射線診断学を習得し、説明できる。 放射線の応用として、食品照射、放射線殺菌、放射性同位元素による汚染などを習得し、説明できる。 X線撮影法、X線診断学、超音波、CT、MRI等の画像診断、放射線療法を習得し、説明できる。 	◎	○	○	○	◎	○	○	○
専門科目	小動物獣医総合臨床Ⅰ	5	前期	2	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 小動物が罹患する各種疾患の原因が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の診断法が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の治療法が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の予後が説明できる。 	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
	小動物獣医総合臨床Ⅱ	5	前期	2	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 小動物が罹患する各種疾患の原因が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の診断法が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の治療法が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の予後が説明できる。 	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
	小動物獣医総合臨床Ⅲ	5	前期	2	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 小動物が罹患する各種疾患の原因が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の診断法が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の治療法が説明できる。 小動物が罹患する各種疾患の予後が説明できる。 	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
	小動物臨床実習	5	通年	3	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 稟告の聴取・視診・触診・聴診・打診を習得し、実施できる。 病的な状態の、血液検査、生化学検査、血液塗抹標本、皮膚検査、神経学的検査、内分泌検査、X線、超音波検査、細胞診、病組織検査について、その適切な解釈と説明方法を取得し、実施できる。 班別実習：不妊手術などの一般的な軟部組織外科、あるいは一般的な整形外科を習得し、実施できる。 	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	臨床病理	4	前期	2	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 血液・貯留液・組織あるいは尿・糞便など、検体の採取方法および前処理方法について、基本を説明できる。 各種臨床病理学的検査の目的と基本的な検査理論を説明できる。 検査結果の読み方を理解し、それをどのように診断に利用するかを説明できる。 	◎	○	○	○	○	○	○	△
	基礎・小動物獣医総合臨床Ⅰ	4	後期	1	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 小動物が罹患する基本的な疾患の原因が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の診断法が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の治療法が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の予後が説明できる。 	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
	基礎・小動物獣医総合臨床Ⅱ	4	後期	1	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 小動物が罹患する基本的な疾患の原因が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の診断法が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の治療法が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の予後が説明できる。 	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
	基礎・小動物獣医総合臨床Ⅲ	4	後期	1	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 小動物が罹患する基本的な疾患の原因が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の診断法が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の治療法が説明できる。 小動物が罹患する基本的な疾患の予後が説明できる。 	◎	○	○	○	◎	○	○	◎

専門科目	獣医総合臨床実習	5	前期	4	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・外科的操作の基本的事項を習得し、説明できる。 ・器具、機材、滅菌、消毒法などの手技について習得し、説明できる。 ・外科手術に必要な輸液および鎮静・鎮痛法を含む麻酔法を習得できる。 ・小動物の適切な医療面接、保定と看護、採血、採尿、投薬および輸液療法、輸血および輸血前検査が実施できる。 ・産業動物の視診、聴診、打診、胃液検査、豚の管理技術（保定、注射、採血、直腸検査）が実施できる。 ・代表的な動物の発情周期、妊娠、分娩および産褥の過程を理解し、説明できる。 ・繁殖障害の治療法および予防法の概要を説明できる。 ・動物の生殖機能を人為的に調節する技術を説明できる。 ・代表的な動物の発情周期、妊娠、分娩および産褥の過程を理解し、説明できる。 ・基礎放射線学と放射線防護を体系的に理解できる。 ・画像診断学として、動物のX線撮影、X線写真の画質、動物の超音波検査、正常超音波像の理解ができる。 	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	実験動物学	3	後期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・実験動物を対象として、動物福祉（3Rs、5 freedoms、環境エンリッチメント等）、関連法規（動愛法、カルタヘナ法等）、人道的エンドポイント、安楽死法について説明できる。 ・実験動物の環境コントロール（適正な飼育管理等）、微生物コントロール（実験動物の健康管理、感染症等）、遺伝コントロールおよびこれらのモニタリング方法について説明できる。 ・実験動物の育種、繁殖、生殖工学技術（遺伝子改変技術等）等について説明できる。 ・比較生物学的視点から各実験動物の特性（種差、系統差、疾患モデル、遺伝子改変モデル等）について説明できる。 ・科学的かつ倫理的動物実験（動物実験計画書作製等）を実践できる。 	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○	
	実験動物学実習	2・4	後期	1	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・実験動物の一般的な取り扱い法を理解し、実践できる。 ・マウス、ラットにおける採血、投与、麻酔鎮痛、手術、安楽死、微生物モニタリング、遺伝モニタリング、生殖工学等の基本技術を習得し、実施できる。 ・「科学的かつ倫理的動物実験」の理念を理解し、実践できる。 	◎	△	◎	○	○	○	○	○	○	○
	獣医公衆衛生学Ⅰ	3	後期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の目的および一次予防と獣医学との関連を理解し、公衆衛生活動における獣医師の役割を認識できる。 ・国民衛生の動向を理解し、衛生水準や問題点を把握して公衆衛生活動の臨むべき方向性について説明できる。 ・食品衛生の定義、食品による人の健康危害を理解し、食による健康危害の予防法について説明できる。 ・乳・乳製品、食肉、食鳥肉、卵、魚介類の衛生について説明できる。 	◎	◎	◎	△	○	○	△	△	△	△
	獣医公衆衛生学Ⅱ	4	前期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・人獣共通感染症の定義、種類、疫学的特徴、社会的な影響を説明できる。 ・各種人獣共通感染症の感染環、発生状況、症状、病原体、診断法および予防対策を説明できる。 	◎	◎	◎	△	○	○	△	△	△	△
	獣医公衆衛生学Ⅲ	4	後期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を衛生的に管理し、生態系を保全する目的として、これまでの環境汚染の歴史や現状を説明できる。 ・室内外の環境における様々な因子を知り、それらが及ぼす健康影響について説明できる。 ・関連法規に基づいて化学物質や病原微生物と健康との関わりについて説明できる。 ・人や動物の健康被害に関与する衛生動物の種類や対策を説明できる。 	◎	◎	◎	○	○	○	△	△	△	△
	獣医公衆衛生学実習	4	通年	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学的管理あるいは公衆衛生学検査法の基本を理解し、食品衛生における物理化学的検査、あるいは生物学的検査（細菌学的検査等）が実践でき、食中毒菌や人獣共通感染症の原因菌について説明できる。 ・上下水や大気中の有害物質等の測定に関する公定法を理解し、複数の物質について測定を実践できる。 	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	△	△	△
	生物統計学	2	前期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の基礎概念、基礎理論を理解し、説明できる。 ・統計量の推定ができ、検定法の正しい利用法を選定かつ実践ができる。 	△	△	◎	△	○	○	△	△	△	△
	野生動物学	2	前期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・野生動物の生体機構のしくみについて説明できる。 ・生態系のバランスを崩さぬよう、環境を健全な形で保全していく方法について保全生態学を理念を基本に説明できる。 ・遺伝子レベルから生態系レベルまで多種多様な観点から野生動物について説明できる。 	○	○	△	◎	△	◎	△	△	△	△
	動物行動学	3	後期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の基本概念と発現機序、および獣医領域における動物行動学の意義と役割を理解し、説明できる。 ・生得行動と学習行動を理解し、具体的に説明できる。 ・主な家畜種（産業動物、伴侶動物）と身近な野生種の行動の特徴と、各種行動の適応的意義を理解し、説明できる。 ・アニマルウェルフェアの行動学的評価について理解し、説明できる。 	◎	○	△	△	◎	△	△	○	○	○
	獣医疫学	3	後期	2	環境獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医疫学の定義、対象、疫学研究の方法、解析結果の評価法を説明できる。 ・感染症の疫学、非感染症の疫学など様々な分野で用いられる疫学の種類とその概要を説明できる。 ・リスクアセスメントの目的と意義および解析方法を説明できる。 ・獣医臨床、動物衛生、公衆衛生における疾病の経済的評価や意義が説明できる。 	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	獣医学概論	1	前期	2	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学概論の趣旨と獣医師の社会的責務を説明できる。 ・各種獣医業務の役割と内容について概略を説明できる。 ・獣医師としての進路を決める上で必要な基本的情報あるいは情報源を把握し、それらを利用できる。 	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
	獣医療倫理・動物福祉	2	前期	2	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・「獣医療倫理」および「動物福祉」に関する情報を収集分析し、整理して理解すると共に、正しい理念に基づいて実践し説明することができる。 	○	△	◎	○	○	○	◎	○	○	○
【アドバンス科目】 専門学外実習	5	通年	1	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら選択した獣医業務現場での実習を通じ、その分野の獣医師の役割を説明できる。 ・自らの実習経験を、職業選択のための情報として、他の獣医学生にも説明できる。 ・獣医師になる者として必要な、職場における態度、姿勢、協調性を身につける。 	△	△	△	◎	○	◎	○	○	○	○	

専門科目	獣医関連法規	4	前期	2	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師法及び獣医療法に関連する各種法規の概要を理解し、説明できる。 ・獣医師の社会的責任及び社会において獣医療の果たすべき役割について理解し、説明できる。 ・獣医師及び獣医療を取り巻く国内外の社会情勢に目を向けることができる。 	○	◎	○	○	◎					
	総合獣医学	6	後期	3	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学及び獣医療の基本的事項を説明できる。 ・獣医師として遭遇するであろう衛生や獣医臨床の課題に、これまでに学んだ専門科目の全ての知識を駆使して対応できる。 	◎	◎	△	◎						◎
	【アドバンス科目】 獣医学特論Ⅰ	5	通年	2	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・科学文献の検索と読解ができ、その内容を説明できる。 ・所属研究室で指導を受けた研究分野について概略を説明できる。 				◎	○	○	○	○		
	【アドバンス科目】 獣医学特論Ⅱ	6	通年	2	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・科学文献の検索と読解ができ、その内容を説明し、かつ質疑応答ができる。 ・所属研究室で指導を受けた研究分野について概略を説明し、質疑応答ができる。 ・質疑内容から次の課題に発展させる姿勢が身に付く。 				◎	○	○	○	○		
	【アドバンス科目】 卒業論文	6	通年	8	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の計画立案と遂行、及び得られたデータの整理と解析する能力を習得し、実施できる。 ・オリジナルなデータを得るための実験あるいは調査を自分で行えるだけのスキルが身に付く。 ・研究成果を論文にまとめ、またその内容を的確に発表できる。 				◎	○	○	○	◎		
選択科目	産業動物臨床基礎実習	1	前期	①	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> 座学と演習、及び実習を通じて、産業動物の特性と基本的飼養管理を認識することにより、 ・社会における産業動物の意義と将来像について説明できる。 ・産業動物に関わる獣医師の社会的責務と関わり方について、基本的な考え方が説明できる。 ・生産獣医療の概要について、説明ができる。 	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎		
選択科目	獣医畜産管理学	3	前期	①	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜が発するシグナルをよみとり、正しい家畜飼養管理とその重要性について理解し、説明できる。 ・疾病予防の観点から、各疾病の発生機序を理解し、説明できる。 ・家畜生産性の観点から、生産獣医療の重要性について理解し、説明できる。 	○	◎	○							○
	畜産物利用学	3	前期	①	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産物のうち、主として食肉、卵、牛乳を対象に、生産性や品質保証などについて、説明できる。 ・畜産物の処理、加工、流通上の技術的諸問題、食品としての機能性、食文化などを理解し説明できる。 	◎			○	◎					○
	飼料原科学	3	後期	①	生産獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜に給与する配合飼料の種類とその特徴について理解し、説明できる。 ・種々の飼料原料や牧草等の栄養価値とその利用方法について理解し、説明できる。 ・「日本飼養標準」と「日本標準飼料成分表」を基に、家畜の養分要求量を満たす飼料設計を作成できる。 	◎			○	◎					○
	【アドバンス科目】 インターンシップ	4	通年	①	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・研修事業所での指導者からの指示を理解し、業務に支障なく研修ができる。 ・研修職場での業務内容を説明でき、またその分野が自分に向いているかどうかを判断できる。 ・研修した職域に就職しようと思う場合は、そのためにどうすべきかを十分に理解し、実施できる。 		○	○	○		◎	◎			
	【アドバンス科目】 最新のバイオサイエンス	3	後期	①	基礎獣医学系	・ライフサイエンス分野での最先端のバイオテクノロジー（特許技術も含む）と最新のトピックスを理解できる。	○			◎		◎			○	
	【アドバンス科目】 臨床解剖学	4	後期	①	基礎獣医学系	・頭部、体幹部、四肢と体系的に構造と疾患の発生について学ぶので、将来、その部分での臨床的な問題に遭遇したときに、その成因を理解し、的確に説明あるいは対処できる。	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎		
	【アドバンス科目】 小動物病院実習	6	前期	②	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・診断法、治療法、あるいは飼い主への対応など診療の進め方を説明できる。 ・問診聴取、カルテへの記載、診察の進め方を習得し、説明できる。 ・興味を持つ診療科での診療について重点的に実習し、その概要を説明できる。 	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎		
	【アドバンス科目】 産業動物アドバンス実習	6	前期	①	臨床獣医学系	<ul style="list-style-type: none"> ・最先端の産業動物獣医療の考えに基づき、適切な診断を下し、最適な治療の選択を行い、その一部を実施することが出来る。 ・生産獣医療が食料生産だけでなく、人の心と身体の健康に及ぼす影響を理解し、その重要性を説明できる。 	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎		